

プログラミングを楽しむ子どもたち
岐阜聖徳学園大岐阜キャンパス



プログラミング「楽しい」

県大会控え小学生体験会 岐聖大

12月の全国選抜小学生プログラミング大会県大会（岐阜新聞社、岐阜放送など主催）に向けたワークショップが30日、岐阜市中鞆の岐阜聖徳学園大岐阜キャンパスで開かれ、県内の小学生と保護者ら33組がプログラミングの楽しさを知った。

県大会が作品の募集を9月1日からスタートするのに合わせて実施。講師は、県大会で審査委員を務める芳賀高洋同大DX推進センター長らが務めた。

イラストを直感的に動かすことでプログラミングで

きる「ビジュアルプログラミング」と、画面上のブロックをつなぎ合わせるながらプログラムを仕上げる「スクラッチ」の2種類を用意し、参加者は習熟度に合わせていずれかを体験した。栗原櫻晴さん（7）は「自分で描いたワニや魚の口をパクパクさせたり、動かしたりできて楽しかった」と話した。

県大会のテーマは「みんなの未来」。作品で使用するプログラミング言語の種類は問わない。応募資格は小学生で、締め切りは10月15日。詳細は大会ホームページで。（田中純太郎）